

## 山口刑務所・岩国刑務所 見学記

### 山口刑務所

刑事拘禁制度改革実現本部委員  
寺崎 裕史 (61期)



#### 1. 収容人員等

山口刑務所は、収容定員633名(既決536名、未決97名)の施設であり、2013年9月2日の見学実施時点での収容人数は、既決357名、未決31名、収容率61.3%という状況であった。

収容対象者は、刑期10年未満で犯罪傾向の進んでいない26歳以上の男子受刑者、未決拘禁者のほか、労役場留置者である。

#### 2. 施設の特徴

山口刑務所は、全国で8箇所存在する総合職業訓練施設(自所に収容中の受刑者以外に全国から受刑者を受け入れ、職業訓練を行う施設)の1つであり、理容、溶接、数値制御機械、工芸、ビル設備管理、情報処理等全13種目、定員181名の訓練を実施している。

上記の職業訓練定員は、山口刑務所の受刑者収容定員の約33.8%にあたる。同日に見学を行った岩国刑務所の上記の割合は約5.6%であるから、山口刑務所における職業訓練の規模の大きさが窺われる。

資格等は、理容師、溶接技術者証明、ボイラー技師等のほか、ITパスポートやマイクロソフトMOSも取得でき、見学時も、デスクトップPCを利用した職業訓練が実施されていた。

また、東京・大阪のハローワークから、テレビ電話を利用した就労指導等が受けられるとのことであり、こうした運用がなされているのは、全国77箇所の刑事施設の中で、山口刑務所を含む2施設のみとのことであった。

なお、職業訓練が充実している一方、大規模な生産工場はなく、生産作業よりも技能獲得に主眼を置いているとのことであった。

#### 3. 医療について

常勤医療スタッフは、外科を専門とする医師1名、正看護師1名、准看護師2名、非常勤スタッフは、薬剤師2名があり、その他、外部の歯科医師、精神科医に委託を行っているとのことであった。

軽度の生活習慣病や感染症、精神疾患、切り傷等は所内で対応可能であるが、ガンやHIV、腎不全等の重い疾病は、所内では対処不能であり、外部病院で治療を行うとのことであった(2012年8月から2013年7月までの外部治療件数は96件)。

歯科治療について、見学時点での順番待ちの人数は46名、平均待ち時間は約1ヶ月とのことであった。

山口刑務所については、2013年2月27日付で、刑事施設視察委員会より、外部医の診察を迅速に受けさせるように努めることを求める意見が提出されているが、刑務所側としては、受け入れに応じてくれる医療機関を探すのに苦労している様子であった。

#### 4. その他

山口刑務所刑事施設視察委員会からは、十分な自殺防止策をとることを求める旨の意見も提出されているところ、被収容者の自殺の問題については、①刑務官内で、自殺の懸念がある被収容者がいないかどうか、互いに注意喚起を行い、巡回を強化したり、②被収容者による自殺方法を研究し、その実行を不能にする工夫(タオル掛けに切り欠きを入れたり、居室の棚の角を落として丸くする等)をして対処しているとのことであった。

2013年9月2日、刑事拘禁制度改革実現本部は、代表14名及び事務局1名で山口県に所在する山口刑務所と岩国刑務所を見学した。

## 岩国刑務所

刑事拘禁制度改革実現本部委員  
大辻 寛人 (59期)



後列左端が筆者

山口県にある岩国刑務所は、全国に8か所（支所を含む）ある女子刑務所の一つである。市街地に所在し、民家に囲まれている。

刑務所から望む山頂には岩国城が見え、刑務所からの帰り、岩国錦帯橋空港に向かうバスからは、錦川に架かる錦帯橋も見ることができた。

### 1. 収容者

同所は、犯罪傾向があまり進んでいないA指標の受刑者を収容している。

収容定員は357名（既決355名、未決2名）であるが、見学時（2013年9月2日）の収容者数は349名（収容率97.8%）、9月半ばには100%を超える過剰収容となるとのことであった。全国的に女子刑務所の収容者数は高止まりの傾向にあるとのことであった。

収容者の平均年齢は51.1歳、最高齢は86歳という。高齢者が多く、炊事等体力のいる作業に従事できる若者が少なく、苦勞しているという。受刑期間は、3年以下が90名と最も多く、初入者が55.9%ということである。

### 2. 施設について

同所は、2002年5月に拘置区（男子）のみを徳山拘置支所に移転して以来、女性のみを収容する刑事施設となっている。

同じ山口県に所在する美祿社会復帰促進センターの収容定員が800名に対し、同刑務所の収容定員は357名と小規模な施設であるためか、比較的のんびりとした空気が流れていた。見学時には、ちょうど、刑務作業が休憩に入っていたため、談笑する女子受刑者の姿も見られた。

### 3. 矯正処遇について

刑務作業については、生産作業としてガラス工芸品・ちりめん細工製品・洋裁、自営作業として炊事・洗濯・清掃など

を行っており、職業訓練としてフォークリフト運転科・ビル設備管理科などが設けられている。

女子刑務所ということで、特に、暴力被害により摂食障害などを来している受刑者に対するメンタル面でのケアなども実施している。また、年1回盆踊り大会を開催しており、これも女子刑務所ならではのイベントであるという。

入所前に無職だった者が多いことから、保護観察、公共の職業安定所、地域生活定着支援センターとの連携による特別調整なども積極的に実施しているという。

### 4. 懲罰等について

年間懲罰件数については、2010年が281件、2011年が289件、2012年が290件と、収容定員数を下回っており、比較的少ない。

懲罰の理由として最も多いのは、暴行とのことである。

### 5. 医療について

常勤として、婦人科医師1名、非常勤として、外科医師、歯科医師、精神科医師が勤務しているとのことである。長期間違法薬物を使用してきた者も多く、歯科診療の希望者は多いという。およそ3か月待ちの状態であるという。

### 6. 概観

比較的収容定員の少ない刑務所ということもあり、100%に近い収容者数でありながら、あまり緊迫した雰囲気は感じなかった。

同じ山口県内にある美祿社会復帰促進センターで脱落した受刑者の収容先ともなっているとのこと、結果的には高齢で体力のない受刑者が増加する傾向にあるという。

800名の収容定員を誇る同センターは収容定員に達していないということであるから、美祿でより多くの受刑者を収容する方が受刑者の処遇改善には資すると思う。